

県内企業

わが社の役員さん

▶16

「モノ創りはひと創り、ひと創りはゆめ創りである」。安房毅社長(70)が貫いてきた信条だ。米沢商業高を卒業後、京都の電機メーカーに就職。1年半後に父が他界し、帰郷して叔父が創業して間もない会社に入った。社長に就いたのは1990年。以来、四半世紀の間、決断の場面が多い。安房毅社長(70)が叔父の教えを頭に浮かべて。「経営には金と人の二つの道がある。迷ったら人の道を選べ」。言葉通り、売り上げが激減し「地獄」を見ても雇用を守り続けた。高畠町糠野目中で剣道を始め、2、3年時に県大会で優勝。米商でも1年くらいレギュラーに。24歳で四段となり、その後はゴルフに転向。朝のウォーキングとともに健康のために楽しむ。県工業会会長も務める。技術と品質管理を担当する久保裕一常務(62)はシャープ出身。ブラウン管から液晶への大変革を経験しながらずっとテレビの仕事に携わり、2年前に米沢



安房 毅
社長

渡部 隆
常務

久保裕一
常務

長 岳征
常務

安房社長 「ゆめ創り」貫く信条

タカハタ電子(米沢)

▽タカハタ電子 設立は1974(昭和49)年。主に家庭用ビデオ、パソコン用モニターなどを製造する一方、自社ブランド商品の開発に注力。86年からは液晶テレビの量産を始め、国内の主力工場となった。取引先のシャープの経営不振で液晶関連の受注は減少したものの、物流システム、有機EL照明など自社ブランドの商品は多岐にわたる。営業所を東京、仙台、名古屋、大阪、福岡、米ロサンゼルスに置く。昨年7月期の売上高は180億円。従業員約220人。本社は米沢市窪田町窪田1-188。

へ。台湾企業による古巣の買収は「過去が消される思い」と言うが、経験を若い技術者に伝えることが使命と考える。趣味は散歩。瞑想(めいそう)しながら米沢の寺町を歩き、上杉神社で手を合わせる。埼玉県深谷市生まれ。

渡部隆常務(59)は自社ブランド商品の開発から設計、製造、販売、メンテナンスまでを行う特機システム事業部を担当する。物流システムや食品加工など多彩な分野で独自商品を生み出してきた。東京営業所が現在の拠点で米沢の自宅に

「名前の通り国内の山を少しずつ制覇するのが夢」という。

水曜日に掲載します

立ち仕事 社員と同じ目線に

安房毅社長が仕事をするのは「夢創室」と名付けられた不思議な空間だ。トップ就任以来、不変の信条を込め、2008年の新工場建設時に設けた。パソコンが置かれた机は脚が長く、前に椅子がない。「製造現場の社員はほとんどが立って仕事をしている。同じ目の高さを大事にしたく

て」。机は工場に出た廃材を利用して社員に作ってもらい、今年1月に導入した。部屋のあるじはキーボードをたたきながらつぶやいた。「座るより立ち仕事の方が頭の回転が速くなる。アイデアも湧いてくる気がする」。ただ、他の役員に勧めてはいないという。

社長室拝見

